

【新潟間税会長賞】

「税金とこれから」

新潟市立木崎中学校

三年 三善 夏菜子

私は今本を読もうと思えば本を読めて、体を起こそうと思えば起こせる自由な体で生活している。何不自由なく元気に生活することは自分にとって当たり前のことだと思えていた。しかし、おばあちゃんやおじいちゃんの入院生活を真の当たりしたことで、体が自由に動くことが当たり前じゃないと思った。

そこで、お年寄りを支える税について調べてみた。そうすると医療や介護の時に税金が使われていると知った。医療では、70歳以上75歳未満の方が二割か三割、75歳以上の方は一割か三割の負担で済む医療保険制度があるみたいだ。介護では、介護サービスを利用した場合、利用者の自己負担は原則一割で済み、残りの九割は五十パーセントを公費負担医療で、五十パーセントは自己負担となるみたいだ。このような制度がなかったら支払う金額が高くなって平等に医療や介護を受けられなくなってしまうから、このような制度はとても大切なものだと思った。

日本は今、少子高齢化が進んでいて、六十五歳以上の高齢者一人を支える二十〜六十四歳の割合がだんだん減少していつている。そうすると、医療や介護などの費用が増えていき、その費用を負担する働き手が減ってしまうという記事が調べると沢山出てきた。何かできることを考えてもなかなか

思いつかない難しい問題だと思う。

税金はおばあちゃんやおじいちゃん、そしてその周りの人が少しでも不安が無くなるようにしてくれていることがわかった。それと同時に、このまま日本の少子高齢化が進んでいつてしまうと、自分が将来高齢者になった時に、自分もそうだけど周りの人も困らせてしまうかもしれないも思った。大人になっても高齢者になっても誰かの役に立てるように、今やるべきこと、できることを頑張っていきたい。そして税金のおかげで元気に生活していけることに感謝しながら過ごしていきたい。